

日本JCも現代の時代的背景から協働的な学びの実現を掲げ、PLP運動を推進しています。

1-1.国としての方針

生きる力の醸成を根本とした学習指導要綱の構成は、新しい時代の目指すべき学校教育の姿として全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現が提言されています。

未来の社会を見据え、児童生徒の資質、能力を育成するに当たっては、このような生きる力を基本とした学習指導要領の趣旨を踏まえ、学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導にいかすことで、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた学びの機会へつなげていくことが重要と考えられます。

(文部科学省 学習指導要綱説明書より引用)

補足説明①

子どもたちが主体的・対話的で深い学びを実現するために、協働的な学びの場が必要であることが述べられています。

1-2.運動の原点

社会が急速に変化し、私たちは正解のない時代を生きています。AIやロボット技術の進展、グローバル化が進む中で、無数の社会課題が存在し国力の低下が危惧されています。こうした時代においても、未来を築くための宝でもある、多様な子どもたちの資質向上に努めることがより良い未来の創造へ大きな一助になることは疑いようがありません。しかしながら、従来の画一的な知識習得だけでは、子どもたちが自らの人生を主体的に切り拓く力を育むことは困難です。求められるのは、一人ひとりの個性と興味関心を軸に、自ら問いを立て、協働しながら学ぶ力を育てる、新しい学びの仕組みです。教育改革の本質は、変化に適応する力ではなく、自ら変化を創り出す力を育てることがあります。子どもたちが好きややってみたいを原動力に、自分らしく社会に関わる未来を描いていく。そのために、私たちは学びのあり方を問い合わせし、時代のニーズを捉えた新たな教育の形へと挑戦することで、教育改革の先にある、明るい豊かな社会の実現に向け共に歩みを進めましょう。

補足説明②

VUCA時代を念頭に、従来の教育ではなく協働的な学びによる資質向上の必要性が述べられています。